

## おわりに

本報告書は、本研究の2年間の取組とその成果、今後の課題をまとめました。

本研究の大きな目的である言語障害のある中学生の現状を把握し、整理することで、言語障害のある中学生の指導・支援の充実を図ること目的に取り組んできました。今回の研究では、小学校のことばの教室を卒業した言語障害のある中学生の現状についての一部を明らかにすることができ、今後の言語障害のある中学生の指導・支援の充実に向けた基礎資料になると考えられます。

言語障害のある中学生の指導・支援については、これまで言語障害教育で培ってきた言語障害に係る専門性と思春期を迎えた中学生に必要な指導・支援の2つの側面があることが示唆されました。言語障害のある中学生の指導・支援を充実させるためには、思春期を迎えた生徒の声や思いにしっかりと耳と心を傾けて、安心できる環境のなかで、じっくり、ゆっくりと寄り添っていく必要があります。そして、言語障害の悩みや不安に寄り添い、言語障害教育の専門性をいかして一緒に解決方法を探していくことが大切だと考えます。言語障害のある子どものライフステージを意識し、中学生段階に必要な指導や支援を、柔軟に見極め、臨機応変に、しなやかに言語障害のある中学生を指導することが、担当教員には求められていくのだと考えます。

研究をまとめるにあたり、多くの方々にご協力いただきました。研究協力機関の札幌市教育員会、札幌市立幌北小学校、札幌市立北辰中学校、下関市立日新中学校、平塚市立崇善小学校、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（世田谷区立駒沢小学校）の皆様には、各学校の特色をいかした事例や意見、情報を提供していただきました。研究協力者の庄司美千代氏、小林 倫代氏、小林 宏明氏、川合 紀宗氏には、ご多用の中、研究協議会等で貴重なご意見をいただくことができました。また、面接調査では、小・中学校のことばの教室に訪問し、中学生と小学校6年生から貴重な声を聞くことができました。中学生から「(この研究を) ことばの教室をよりよくするために生かしてください。」と熱いメッセージを託されました。

今後、この研究の成果が、各地域のことばの教室の充実に寄与し、言語障害がある子どもたちが、安心して学び続けることができるための一助になることを祈念します。そして、改めて、これまで2年間研究にご協力いただいた皆様に深く感謝して、お礼のことばに代えさせていただきます。

研究代表者 情報・支援部 主任研究員 滑川 典宏